

採血および生理機能検査概要

再来受診の患者さんへ

正面玄関横の自動再来受付機にて基本伝票を
発行します

※診察時間の1時間30分以上前の受付はでき
ませんのでご注意ください



◎採血センターでの採血 (みどりの案内板：1階5番)



①無人受付機にて受付を行います。

受付機右のバーコード読み取り口で基本伝票の右上に印字されたバーコード
を読ませてください

お名前と採血や採尿の有無が画面に表示されますのでご確認ください

※採尿がある場合受付機右横より尿コップが発行されます



②採尿は採血センター横の検査用トイレを
ご使用ください

尿は室内に設置してある専用窓口にご提出
ください

※不明な点は近くに係りの者がおりますの
でお気軽にお声をおかけください

尿は一番下の目盛 25mL で検査可能です

※受付画面にて「左手の窓口受付にお申し出ください」と表示された場合には
受付クラークが内容を確認いたしますので窓口へお越しください

③採血の準備が整いましたら採血センター入口の電光掲示板よりアナウンスが
流れ持参されている基本伝票の番号が表示されます

※お名前ではなく、本日の基本伝票の番号でお呼びします



- ④採血は看護師または臨床検査技師が行います
その際担当者が本人確認のためにお名前と生年月日をお尋ねします。またアルコール消毒が可能であるかのご確認を行いますのでご協力ください
(アルコールが不可な方には代替消毒薬を使用します)

※採血中に気分が悪くなられた、または痛みや痺れを感じる場合はすぐにお申し出ください

- ⑤止血を十分に行うために、血液が固まりにくくなるお薬（ワルファリン等）の服用について採血終了時にお尋ねしますのでご協力ください

- ◎採血前の絶食については医師、看護師等の指示にしたがってください
※血糖負荷試験、脂質系検査、腹部エコー等がある場合

- ◎採血の結果は採血後概ね 60 分程で医師のもとへ報告されます。
他の検査が無い場合には受診される診療科でお待ちください

採血センターでは以下の検査受付も行っていきます

※窓口にて受付クランクが内容を確認しご案内いたします

- ①尿素呼気試験（呼気採取）

- ②大腸検査（前処置）は受付後 6 番へお入りください

- ③注射・点滴（診療科窓口にて黄色いファイルが渡されます）

※注射・点滴がある患者さんは採血前に診療科窓口での確認が必要です

◎外来総合治療センターでの採血 （ピンクの案内板：2 階 16 番）



※外来総合治療センターで治療がある患者さんは直接 2F へお越しください

- ①受付クランクへ外来治療センター予約票提示し基本伝票をご提出下さい

- ②受付クランクが内容を確認いたします

- ③採血の準備が整いましたらお名前ではなく本日の基本伝票の番号でお呼びいたします

採尿がある場合には外来治療センター内トイレをご使用し室内に設置して

ある専用置場にご提出ください

※不明な点は近くに係りの者がおりますのでお気軽にお声をおかけください

- ④採血は看護師が行います。その際担当者が本人確認のためにお名前と生年月日をお尋ねします。またアルコール消毒が可能であるかのご確認を行いますのでご協力ください
(アルコールが不可な方には代替消毒薬を使用します)

※採血中に気分が悪くなられた、または痛みや痺れを感じる場合はすぐにお申し出ください

採血された血液で行う検査

- ①採血は検査値を正確に出す上で最も適した採血管を使用します
※検査項目が少なくても検査内容によって採血本数が増えることがあります

- ①末梢血液一般検査：貧血や出血傾向、炎症の有無を調べます

≪血算≫

採血量：2.0mL

測定時間の目安：約 30 分

(血液中の細胞等を分類する場合には 60 分を超えることがあります)

≪血沈≫

採血量：1.1mL

測定時間の目安：約 60 分

- ②凝固検査：主として出血傾向の有無を調べます

採血量：1.8mL

測定時間目安：約 45 分

(特殊検査がある場合には必要量に応じ別途採血することがあります)

※外部に委託する特殊検査は当日結果が出ません

- ③血糖代謝検査：主として血糖およびヘモグロビン A1c を調べます

採血量：2.0mL

測定時間の目安：約 60 分

(糖負荷試験の場合には指定時刻に別途採血があります)

- ④生化学検査：蛋白、肝機能、膵機能、心機能、腎機能、電解質、鉄分、脂質等を調べます

採血量：8.0mL

(特殊検査がある場合には必要量に応じ別途採血することがあります)

測定時間の目安：約 60 分

※外部に委託する特殊検査は当日結果が出ません

- ⑤免疫検査：免疫、感染症、腫瘍マーカー、ホルモン等を調べます

採血量：8.0mL

(特殊検査がある場合には別途採血することがあります)

測定時間の目安：60～90分

※外部に委託する特殊検査は当日結果が出ません

⑥輸血検査：血液型検査や輸血する血液製剤が適合なのかを判定します

採血量：6.0mL

(初診の場合血液型検査は別のタイミングで2回採血します)

測定時間の目安：約60分

※初回輸血の場合には別途5.0mL採血します

検査項目の詳細については「なるほどザ検査ミニ知識」は別途配布していますスタッフにお尋ねください

その他の採取物で行う検査

◎尿、便、喀痰、体腔液、分泌物、皮膚、組織等、体から排泄される体液をそのまま用いる場合と、医師が処置を行って採取する場合があります

①尿検査：主として蛋白や糖、血液成分等が(+)か(-)かを簡易的に判定します

測定時間の目安：約30分

(尿中の細胞等を分類する場合には60分を超えることがあります)

尿量は尿コップの一番下の線(25ml)まであれば十分検査が可能ですが極端に少ない場合には再採取を依頼することがあります

※診察までにどうしても尿が採取できない場合はお申し出ください
本日尿検査が必要であるか担当医師に確認いたします

②便検査：主として血液成分の混入が(+)か(-)かを簡易的に判定します

測定時間の目安：約30分

(虫卵検査の場合には60分を超えることがあります)

③微生物検査：細菌などの病原微生物を特定しお薬の効果を判定します。
尿、便、喀痰、分泌物等を培養して検査行うことから時間を要します
ある特定の細菌やウイルスについてはキットを用いた迅速検査にて簡易的に抗原を調べ診断の補助とすることがあります

◎一般細菌同定 1～2日培養し菌の量を増やした後に検査を行うため
当日結果が出ません

◎迅速検査

測定時間の目安：30～60分

ウイルス：インフルエンザ、アデノ、RS、ノロ

細菌：A群溶連菌、肺炎球菌、レジオネラ菌、クロストリジウム菌

④病理・細胞診検査：組織や細胞を採取し病変の有無を調べます

採取された組織や細胞は特殊処理を施し染色を行い顕微鏡にて目視します。
時間を要するため当日結果が出ません

次回の外来時に結果について医師より説明があります

※測定時間の目安は採血終了から結果報告がなされるまで
の時間を掲示しています

生理検査・超音波センター

(むらさきの案内板：2階18番・19番)

心電図および腹部・心臓・乳腺超音波検査を受けられる患者さんは、胸やおなかを直に検査することから女性技師による検査が希望できます。受付の際にお申し出ください。但し検査の都合上順番が前後することがありますのでご了承ください



長時間(60分以上)お待ちの方または体調が悪い方は係までお申し出ください

①心電図：検査時間 約5分

脈の乱れや、胸や背中での痛み、動悸、呼吸困難、失神などの原因を調べる検査です。検査前に上半身の着衣をたくし上げるか、脱衣後にベッドにあおむけにやすみます。胸に吸盤状、手足に洗濯バサミ様の電極を直に付け1分程記録を行います。先生の指示によっては長めに記録することもあります。

※女性技師による検査が希望できます

②運動負荷心電図(トレッドミル)：検査時間 約40分

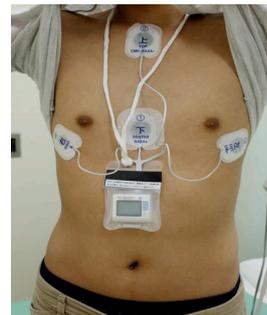
安静時と運動後の心電図を比較し狭心症の有無やお薬の効果を判定します。検査前に検査着に着替えます。シール電極を10枚貼付け、血圧計を装着しローラーの上を歩行しながら心電図および血圧の変化を記録します。検査には必ず医師が同席しますので症状がある場合には遠慮せずに申し出て下さい。検査を途中で中止することがあります。

逆に症状や心電図変化が乏しい場合には長めに記録することもあります。

※女性技師による検査が希望できます

③24時間ホルター心電図(+血圧)：装着時間 約10分

上半身の着衣をたくし上げるか、脱衣後にシール電極を4枚と記録装置を貼付けます。この検査はいつ、どんな時に、心電図変化があるのかを知ることが出来ます。解析を詳細に行えるように患者さんには機械装着の間行動の記録を記載して頂く必要があります。行動の記録は機器取り外し時に一緒に提出ください。翌日同時間に機器を取り外します。次回の診察の際に



医師より解析結果の説明があります。
行動の記録は機器返却時に一緒に提出ください。
※女性技師による検査が希望できます

④肺機能検査：検査時間 10～15分

肺活量は、ゆっくりと最大限呼吸を行う一般的な肺活量と予め胸いっぱい吸っていた息を最大限の速さで呼出する（努力制肺活量）2通りの方法で測定を行います。肺の中を出入りする空気の量や気道（気管支）の息の通りやすさをみるための検査です。機械の中で閉鎖的に検査をするため鼻をノーズクリップで塞ぎ

口だけで呼吸を行います。呼吸管を咥える際に口元から空気が漏れてしまうと、実際の容量よりも少ない値になってしまいます。そのため入れ歯を装着している患者さんには外して頂くようお願いすることがあります。



閉塞性換気障害の患者さんは、薬効をみるために気管支拡張剤の使用前、後で肺活量を比較し改善率を計算します。

その他特殊検査として機能的残気量（肺の中にどれくらい停滞する空気が存在しているか）や、肺拡散能（肺の中でどれくらいガス交換ができているか）クロージングボリューム（末梢気道がどれくらい閉塞しているか）等の検査を行うことがあります。

※特殊検査がある場合には30分を超えることがあります

⑤睡眠ポリグラフ検査（PSG）：装着時間 60分

いびきがひどい、昼間に眠たいなどの睡眠障害の精査として行われます。

主として睡眠時時無呼吸症候群、ムズムズ脚症候群、中枢神経障害の鑑別を行う検査です。

夕方機器を装着し朝回収します。

事前に外来にて簡易検査を受けていただき上記疾患が疑われた場合に行われる精密検査です。



機器を装着するのに約60分その後8時間以上の睡眠（または記録）が必要
なため外来では実施できません。

⑥脳波：検査時間 約60分

てんかん、意識消失発作、意識障害等の機能異常、脳動脈硬化症、脳血管障害、脳腫瘍等の器質的な異常をみる検査です。特にてんかんは脳波検査でしか異常を確認することが出来ないことから必須検査となります。リクライニングシートに掛け（またはベットに仰向け）頭部に21個の電極を装着して検査を実施します。



電極装着に 10 分程時間を要します。小児の場合緊張緩和のために保護者同伴をお願いすることがあります。

目を閉じたままで検査を行います。医師の指示により途中目の前で明かりを点けたり消したり（閃光）、大きな呼吸（過呼吸）をある一定時間で繰り返す等、刺激試験を追加で実施することがあります



※眼を閉じて検査するため検査中に眠ってしまっても特に問題はありません
※小さなお子様は電極が外れないようにペースト使用することがあります
ので予めご了承ください（検査後は蒸タオルで清拭します）

※検査時間が 60 分と長いためトイレは事前に済ませておきます

⑦聴性脳幹反応（ABR）：検査時間 約 15 分（簡易検査）

ABR は、乳幼児の聴覚障害のスクリーニングのための簡易検査と聴神経腫瘍、意識障害、多発性硬化症、脳死の判定等を実施する精密検査とがあります。

ベッドに仰向けになり頭部に 3～4 個の電極を、耳にヘッドホン装着し、目を閉じた状態で音刺激を行い検査します。新生児や乳幼児の場合は覚醒時に安静を保てず測定できないことが多いことから睡眠時に実施します。当センターは簡易のみ実施しています。



⑧ 血圧脈波伝播速度 (ABI/CAVI)：検査時間 約 15 分

ABI 検査（足関節上腕血圧比）は足首と上腕の血圧を測定し、その比率（足首収縮期血圧÷上腕収縮期血圧）を計算したものです。コレステロールの沈着が進行するとアテローム動脈硬化を生じます。この検査は動脈が細くなっているあるいは詰まっている部位を特定することはできませんが 病変の存在は推定できます。ベッドに仰向けにやすみ両手両足の血圧を同時に測定します。ABI の検査と平行に CAVI 検査（動脈の硬さ）を同時測定するために胸には心音を計るための電極を 1 個装着します。CAVI は他の同様の検査に比べ血圧の影響を受けにくいのが特徴です。



⑨ 超音波（エコー）検査部位によって検査時間が異なります

〈腹部エコー〉：検査時間 15～20 分

肝臓、胆のう、膵臓、脾、腎（大動脈、消化管、婦人科・泌尿器領域）腹腔内臓器の形や大きさ計測したり、臓器の内部構造から、腫瘍病変を推定したりします。（）内に示す診療に特化した領域もあり、それらは専用プローブを用いることから外来にて直接診察医が実施する場合があります。

※女性技師による検査が希望できます



《心エコー》：検査時間 15～20分

心臓の大きさや筋肉の厚みを計測したり弁の開閉状態や心臓全体の動きをみます。併せて胸部から腹部の大動脈の拡大や解離が無いかも検査します。検査前に上半身の着衣をたくし上げ一般的に左向きにやすんだ姿勢（心臓が下になるように）で検査します

※女性技師による検査が希望できます



《頸部血管エコー》：検査時間 15～20分

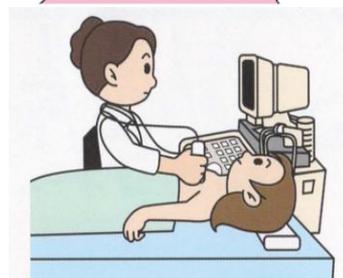
頸動脈の壁の厚みや細くなっているあるいは詰まっている部位を直接観察したり、血液の流れるスピードを計測し左右の頸動脈血流の差などから間接的に同様の病変を推定します。検査前に首元を広く開けベッドに仰向けにやすみ顔を横向きにして左右の頸動脈を検査します



《乳腺エコー》：検査時間 15～20分

両乳房の乳腺の厚みや状態を観察したり、乳房または腋窩リンパ節（脇の下）に腫瘍が無いかを検査します検査前に上半身の着衣を脱衣後にベッドに仰向けにやすみます。検査者から気になる場所をお尋ねするまたは検査部位を触診することがあります。

※女性技師による検査が希望できます



《甲状腺エコー》：検査時間 15～20分

甲状腺や副甲状腺の大きさを計測したり臓器の内部構造から、炎症や腫瘍病変を推定したりします。検査前に首元を広く開けベッドに仰向けにやすみ顎を軽く上向きにしてやすみます。



《下肢動静脈エコー》：検査時間 30～45分

下肢の動脈や静脈の走行（シャント）や血液の流れるスピードを計測し狭窄部位を推定したり、血栓の有無や静脈弁の開閉状態などを直接観察します。通常ベッドに仰向けでやすみ検査を行いますが、部位によっては腰掛けた状態または立った状態で検査を行う場合もあります。

その他わからないことがあればスタッフにお尋ねください

第1版 平成28年 2月 2日

第2版 平成28年 11月 1日

臨床検査部